

## 平成30年度第5回常務理事会議事録

日 時： 平成31年1月18日（金）15：00～17：15

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室

理 事 長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

常務理事：青木 大輔、苟原 稔、榎本 隆之、岡本 愛光、加藤 聖子、北脇 城、吉川 史隆、  
竹下 俊行

監 事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

顧 問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：工藤 美樹、生水 真紀夫、千石 一雄、村上 節、山田 秀人

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司、田村 秀子

幹 事 長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹 事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、  
木村 文則、桑原 慶充、近藤 英治、佐藤 美紀子、関根 正幸、寺尾 泰久、  
西ヶ谷 順子、西郡 秀和、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

事 務 局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事 11 名のうち全員が出席し、定足数に達しているため、藤井知行理事長が開会を宣言した。議事録署名人名には、理事長、監事の計4名を選任し、これを承認した。続いて、平成30年12月5日に確定した平成30年度第4回常務理事会議事録を確認した。

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

①有松直教功労会員（福岡）が12月14日にご逝去された。

##### (2) 幹事交代について

第3回理事会において馬場長幹事を解委嘱し、近藤英治先生（京都大学）に幹事を委嘱した。

近藤英治幹事に委嘱する担当および委員は以下の通り。

総務担当幹事、運営委員会委員、社会保険委員会委員、婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会委員、産婦人科未来委員会委員

##### (3) 運営委員会理事候補者選出管理委員会からの報告について

[資料：総務1]

今回実施される各ブロックの理事候補者選出方法は、前回と変更なく、本会が制定した「各ブロックからの理事候補者選出規則」に鑑みて問題ないことを確認した。

##### (4) 平成31年度臨時総会議事次第について

[資料：総務2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (6)専門委員会

## (イ)生殖・内分泌委員会

## ①会議開催

平成30年度第2回 生殖・内分泌委員会	1月16日(水)
---------------------	----------

## (ロ)婦人科腫瘍委員会

## ①会議開催

低侵襲広汎子宮全摘術に関する小委員会	2月2日(土) 【予定】
第3回婦人科腫瘍委員会	2月3日(日) 【予定】

## ②子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術について

[資料:総務3-1]

**榎本隆之委員長**「厚生労働省保険局医療課および健康局がん・疾病対策課から、子宮頸癌に対する腹腔鏡下悪性腫瘍手術についての照会が本会、日本婦人科腫瘍学会および日本産科婦人科内視鏡学会あてにあり、これへの回答案を作成した。加えて会員へのお知らせを作成したので機関誌、ホームページに掲載したい。日本婦人科腫瘍学会などにもホームページに掲載するように依頼を行いたい。また照会への回答のなかで『レジストリを構築するなど主体的に取り組む』としているので今後、関係学会と協議して取り組んでいきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (ハ)周産期委員会

- ①日本てんかん学会より、第53回日本てんかん学会学術集会(2019年10月31日～11月2日)における演者(近畿周辺の女性を希望)の推薦依頼を受領していた件につき、本会から森實真由美先生(神戸大学)を推薦した。

## (ニ)女性ヘルスケア委員会

## ①書籍頒布状況(1月16日現在)

- ・低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステリン配合薬ガイドライン2015  
書籍版:5,393冊
- ・ホルモン補充療法ガイドライン2017  
書籍版:2,995冊  
書籍版+ID/PW付き:986冊(うち、ダウンロード済み509件)
- ・女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針  
書籍版:863冊

- ②「女性のヘルスケアアドバイザー養成講座」は2018年度で終了し、今後は「女性のヘルスケア研修会」として日本女性医学学会が主催し、2019年9月から開始する予定である。

**加藤聖子理事**「これについての問い合わせがあるので、ホームページに掲載したい。」

- (7)無痛分娩関係学会・団体連絡協議会の厚生労働科学研究池田班分担研究「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」との共同研究実施承認依頼を受領し、これに応諾した。

[資料:総務4]

(8) AMED 革新的がん医療実用化研究事業研究班（代表 大須賀穰先生）が作成した「がん患者の妊孕性温存のための診療マニュアル」について本会に後援依頼があり、生殖・内分泌委員会および婦人科腫瘍委員会で内容を確認した。 [資料：総務 5]

青木大輔理事「以前に日本がん治療学会で妊孕性温存のためのガイドラインをがん治療医の立場から作成したが、生殖分野の先生の立場からは今回の内容になる。双方相まってということで意味があると思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (9) 健やか親子 21 への参加

健やか親子 21 幹事会（12 月 19 日開催）に 荻田和秀委員長（テーマグループ 3）、矢内原臨幹事（テーマグループ 1）、織田克利幹事（テーマグループ 4）が幹事団体代表として参加した。

### 〔Ⅱ. 官庁関係〕

#### (1) 厚生労働省からの会員周知依頼について

本会ホームページに掲載済

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局医薬品審査管理課・医薬安全対策課	サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びポマリドミド製剤の使用にあたっての安全管理手順改定について	総務 6-1
医政局地域医療計画課	ACP(アドバンス・ケア・プランニング)愛称決定について	総務 6-2
保険局医療課	妊婦加算の取扱いについて	総務 6-3

本会ホームページに掲載し、会員に周知したい

部署	内容	資料
医政局研究開発振興課	「『再生医療等の安全性の確保等に関する法律・法律施行令・法律施行規則』の取扱い」の一部改正について	総務 7-1
子ども家庭局母子保健課	母子健康手帳の任意記載事項様式について	総務 7-2

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 〔Ⅲ. 関連団体〕

#### (1) 日本医学会

①日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知したい

原依頼部署	依頼項目	内容	資料
厚生労働省医政局長、政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）	会員周知	医師による死因等確定・変更報告の取扱いについて	総務 8-1
厚生労働省医政局研究開発振興課	会員周知	臨床研究法における臨床研究の利益相反管理について	総務 8-2
厚生労働省医政局研究開発振興課	会員周知	「『再生医療等の安全性の確保等に関する法律・法律施行令・法律施行規則』の取扱いについて」の一部改正について	総務 8-3

厚生労働省医政局研究 開発振興課	会員周知	再生医療等の安全性の確保等に関する 法律施行規則及び臨床研究法施行規則 の一部を改正する省令の公布について	総務 8-4
厚生労働省医政局研究 開発振興課	会員周知	再生医療等の安全性の確保等に関する 法律に関する Q&A (その 4) について	総務 8-5
厚生労働省医薬・生活衛 生局医薬品審査管理課	会員周知	ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) 製剤 の最適使用推進ガイドラインの作成及 び一部改定について	総務 8-6
厚生労働省医薬・生活衛 生局医薬品審査管理課	会員周知	アテゾリズマブ (遺伝子組換え) 製剤の 最適使用推進ガイドライン (非小細胞肺 癌) の一部改定について	総務 8-7

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ②日本医学会より、第 30 回日本医学会総会 2019 中部 登録推進 (含チラシ同封) に関する依頼を受領した。 [資料:総務 9]

青木大輔理事「本会ホームページに掲載することにしたい。」

- ③日本医学会より、日本医学会分科会 理事長・会長あてに NIPT 指針遵守についての周知依頼が発信された。本会もホームページに掲載して会員に周知した。 [資料:総務 10-1]

- ④日本医学会より、「日本医学会子宮移植検討会 (仮称)」を会内委員会として立ち上げる事が決定したとの報告を受領した。 [資料:総務 10-2]

## (2) 日本医学会連合

日本医学会連合より、加盟学会連絡協議会[2月5日(火)、於:東海大学校友会館(霞が関ビル35階)]への出席依頼と、「医師の働き方改革に向けて」のセッションでの講演依頼を受領した。

出欠については1月28日までに回答を求められている。 [資料:総務 10-3]

藤井知行理事長「海野信也先生にお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (3) 日本臨床細胞学会

日本臨床細胞学会より、「細胞診専門医」についての要望書を受領した。 [当日資料:総務 10-4]

青木大輔理事「日本臨床細胞学会は外科学会にも同様の要望書を出したが、外科学会はヒアリングを行って厳格な基準に沿って判断しているようである。本会にも産婦人科領域のサブスペシャリティ領域専門医として認識をしていただきたいということで要望書を提出した。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## [IV. その他]

### (1) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、国立大学教育研究評価委員会専門委員、及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者推薦依頼につき、本会から大須賀穰先生を推薦した。

### (2) NPO法人日本ホルモンステーションより、第4回「松尾賞」応募への協力依頼を受領した。

[資料:総務 11]

本件については、理事の先生方に周知することにした

(3) 乳房健康研究会より、「ピンクリボンウォーク 2019」(2019年4月7日)への後援名義使用申請を受領した。例年の申請であり、これに応諾したい。 [資料:総務 12]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 一般財団法人杉山記念財団より、平成30年度SMF生殖医療振興助成制度の案内を受領した。

[資料:総務 13]

本件については、理事の先生方に周知することにした。

(5) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 基盤研究事業部バイオバンク課より、「ゲノム指針・医学系指針に基づき実施されている研究に関する実態と課題のアンケート調査」の依頼を受領した。回答期限は1月31日である。 [資料:総務 14]

**青木大輔理事**「専門委員会、臨床研究審査委員会に確認いただいて総務で取りまとめる予定である。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) NPO法人女性の健康とメノポーズ協会より、『女性の健康週間イベント「女性の健康と働き方」フォーラム』への後援名義使用申請を受領した。経済的負担はなく、例年の依頼であり、これに応諾したい。 [資料:総務 15]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) ウィメンズ・ヘルス・アクション・シンポジウム実行委員会から、「ウィメンズ・ヘルス・アクション・シンポジウム in 東京」(2019年2月24日、東京大学伊藤学術研究センター「伊藤謝恩ホール」)の後援名義依頼を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であり、これに応諾したい。 [資料:総務 16]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

## 3) 学 術 (木村正副理事長)

### (1) 会議開催

第4回学術委員会、第4回学術担当理事会
---------------------

3月1日【予定】
----------

### (2) プログラム委員会関連

(イ) 第71回学術講演会プログラム委員会

**梶山広明第71回プログラム委員長**「現在、2月号の校正の最終段階である。」

(ロ) 第72回学術講演会プログラム委員会

特別講演演者選考委員会	1月18日
シンポジウム演者選考委員会、プログラム委員会	2月28日【予定】

(ハ) 第73回学術講演会プログラム委員会

第73回学術講演会第1回プログラム委員会	1月18日
----------------------	-------

青木大輔理事「学術集会の委託業者の選定は早い方が準備期間が取れてよいので、今年は3月に行うことにしたい。」

#### 4) 編集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

第4回和文誌編集会議・第1回 JOGR 全体編集会議	1月18日 (金)
----------------------------	-----------

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況:

2018年 JOGR 投稿状況 (2018年12月31日)

投稿数	1,660
Accept	209
Reject	1,088
Withdrawn/Unsubmitted	166
Under revision	48
Under review (審査中)	142
Expired	7

2017年 JOGR 投稿分の審査状況 (2018年12月31日)

投稿数	1,487
Accept	259
Reject	1,116
Withdrawn/Unsubmitted	106
Under revision	0
Under review (審査中)	0
Expired	6

(3) 71巻特集について

前回の編集担当理事会ならびに理事会で日本産科婦人科学会雑誌71巻特集の取り纏め役の先生の承認を得たので、その先生方に執筆依頼者と依頼テーマを提出いただいた。

(4) 日本産科婦人科学会雑誌71巻2号との同梱について

前回の理事会で承認をいただいたので、日本産科婦人科学会雑誌71巻2号に(株)カイトーのチラシ

を同梱する予定である。

(5) 厚生労働科学班研究（女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を目指した研究）より、作成されたガイドブックの同梱依頼を受領した。 [資料：編集1]

**加藤聖子理事**「本会が全面的にバックアップしている研究であれば同梱することは可能だが、ガイドブックの内容確認までは難しいので、同梱の際には、内容責任は班研究にあることと問い合わせ窓口を明記していただきたい。また同梱に係る手数料については10万円と同梱による郵送料加算分をいただくことになる。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 2月号（学術講演会プログラム）について、抄録を掲載していない旨のアナウンスを表紙に記載することとなった。 [資料：編集2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) 渉外（岡本愛光理事）

(1) AFOG Congress 2019（11月10-14日、於：フィリピン マニラ）について

① スピーカー推薦について

第70回学術集会シンポジスト8名の意向を確認し、4名を推薦した。

② Young Gynaecologist Award (YGA) 募集について

応募者について AFOG YGA 選考委員会（理事長、渉外委員長、渉外副委員長、教育委員長、AFOG officers, AFOG committee chairs/members）による審査を行った。

**岡本愛光理事**「応募者は1名であり、選考の結果、自治医科大学附属埼玉医療センターの大井手志保先生を推薦することになった。」

(2) KSOG より、9月の KSOG 学術集会（9月20-21日、於：韓国 ソウル）に合わせて行われる日韓台 Exchange Program について Invitation を受領した。 [資料：渉外1]

## 6) 社 保（北脇城理事）

(1) 会議開催

第3回社保委員会
----------

2月22日（金）【予定】
--------------

(2) 2020年診療報酬改定提案について

[資料：社保1]

(3) 外保連試案改訂（外保連試案2020）に向けて、社保委員の所属施設において手術試案医療材料見直しの調査を行った。

(4) 日本医師会疑義解釈委員会より、「平成30年度 医療機器・体外診断用医薬品の供給停止品目(30疑0631)」についての検討依頼を受領し、本会理事、および社保委員による検討結果を回答した。

(5) ロボット支援下婦人科悪性腫瘍・良性疾患手術実施施設登録状況について [資料：社保2]

## 7) 専門医制度 (八重樫伸生副理事長)

### (1) 会議開催

第6回研修システム改修小委員会	1月9日 (水)
第4回中央専門医制度委員会	1月26日 (土) 【予定】

### (2) 日本専門医機構

#### ①会議開催

日本専門医機構 シーリングについての基本領域会議	12月9日 (日)
日本専門医機構 第1回基本領域連携委員会	12月27日 (木)

②2019年度に研修を開始する専攻医の日本専門医機構「専攻医登録システム」の二次登録を開始した(第1次登録期間：10月22日～11月21日、第2次登録期間：12月22日～1月21日)。

## 8) 倫理委員会 (苟原稔委員長)

### (1) 会議開催

第13回PGT-Aに関する小委員会	12月16日 (日)
公開シンポジウム	12月16日 (日)
平成30年度第1回臨時倫理委員会	12月25日 (火)
第3回「母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する検討委員会」	1月9日 (水)
平成30年度第4回着床前診断に関する審査小委員会	1月29日 (火) 【予定】
平成30年度第5回倫理委員会	2月12日 (火) 【予定】

### (2) 本会の見解に基づく諸登録 (平成30年12月31日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：89 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：614 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：614 施設
- ④顕微授精に関する登録：577 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：98 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

### (3) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

#### ①旧見解に基づく審査：]

平成30年12月8日現在申請775例 [承認685例、非承認23例、審査対象外37例、取り下げ5例、照会21例、保留4例] (承認685例のうち50例は条件付)

#### ②平成30年6月の見解改定に伴う施設申請70施設：

平成 30 年 12 月 8 日現在 [承認 45 施設、照会 25 施設] (承認 45 施設のうち 6 施設は条件付)

③着床前診断の「重篤性」について

**苛原稔委員長**「今回、治療法の進歩もあるので重篤性の定義について整理をしたい。倫理委員会では一例一例チェックするなかで専門家の意見をまとめて判断していくようにしたい。本件についてはもう少し議論を重ねて次回の理事会では方針を決定いただけるようにしたい。」

(4)「臨床研究審査小委員会」報告事項

①岡山市立市立総合医療センター平松祐司会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 (Diabetes and Pregnancy Outcome for Mother and Baby Study) - 妊娠糖尿病・妊娠転帰 (DREAMBee study[GDM-PO])」について審査を行い、平成 30 年 11 月 30 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 1]

②岡山市立市立総合医療センター平松祐司会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 (Diabetes and Pregnancy Outcome for Mother and Baby Study) - 糖尿病および“妊娠中の明らかな糖尿病 (Overt diabetes in pregnancy)” 合併妊娠の妊娠転帰調査 (DREAMBee study[DM/OvertDM-PO])」について審査を行い、平成 30 年 11 月 30 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 2]

③名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学山本英子会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された、「日本における絨毛性疾患に関する疫学研究」について審査を行い、平成 30 年 12 月 28 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 3]

④日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会委員長、新潟大学大学院医歯学総合研究科・産科婦人科学榎本隆之会員より研究計画変更の申請があった、「婦人科腫瘍委員会 婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究」について迅速審査を行い、1 月 8 日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 4]

(5)PGT-A に関する公開シンポジウムについて [資料：倫理 5]

**苛原稔委員長**「参加者は約 300 名であった。現段階のパイロット試験データによれば、流産率は明らかに低下する、生産率はあまり変わらない、ということで世界的な傾向と同じであった。シンポジウムでは賛否両論が出て倫理面、医療面の問題点がクリアになったと思う。臨床研究の継続についても理解が得られたが、テーマをいくつか決めて進めるのがよいと考えている。年度末には計画を作成し来年度早々にはスタートしたい。また臨床研究を行う産科施設は増やす方向で進めたい。」

(6)NIPT 指針の見直しについて [資料：倫理 6-1, 6-2, 6-3, 6-4]

**久具宏司委員長**「1 月 9 日の小委員会では公開シンポジウムの開催およびパブリックコメントを求めてはどうかとの意見が出た。さらに連携施設の条件として分娩を行う施設であることに緩和条件を付けるかどうかについても協議いただきたい。」

**藤井知行理事長**「最後までお産を見るので分娩施設とすること、指針に小児科との連携について加筆することにしたい。その上で日本医学会と一緒に考えることにしたい。」

久具宏司委員長「Baby プラスを通して妊婦さんの声を集めるのみにしてはどうか。」

小西郁生顧問「メディアにパブコメを求めていることを伝えてもらい、広く国民に議論を起こすのがよい。」

苛原稔委員長「Baby プラスを利用した上で、本会ホームページでパブコメを求めるのがよいと思う。」

藤井知行理事長「それではBaby プラスを通して妊婦さんの意見を集め、本会ホームページで一般の意見を求め、その集計は幹事の先生にお願いしたい。」

連携施設の条件、日本医学会との協力およびパブリックコメントへの対応について特に異議はなく、全会一致で承認された。

苛原稔委員長「着床前診断の申請や登録調査などは紙ベースで行っているが、電子媒体を利用すると審査が楽になるし手間も省ける。多少費用がかかるかもしれないが進めたい。」

藤井知行理事長「それでよいと思う。」

## 9) 教 育 (竹下俊行理事)

### (1) 会議開催

試験問題作成委員会コアメンバー会議 (女性ヘルスケア分野)	1月18日 (金) 【予定】
-------------------------------	----------------

### (2) 書籍頒布状況 12月31日現在

産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,015
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	585
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	581
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	717
うち必修知識ダウンロード	967
用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)	438
用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付)	748
うちダウンロード済み	325
専門医試験例題と解説 2016	1,272
専門医試験例題と解説 2017	548
専門医試験例題と解説 2018	1,120

### (3) 日本医学会用語委員会への出席

2018年12月18日に開催された日本医学会用語委員会に用語委員会副委員長である久具 宏司先生が出席した。 [資料：教育1]

### (4) 専門医認定筆記試験問題作成について

2019年度専門医認定筆記試験問題作成にあたっては、ほぼ予定通り進行している。

### (5) 産婦人科専門医のための必修知識について

未入稿であった先生方には文書にて進行伺いを送付した。

### (6) 第71回学術講演会時「International Workshop for Junior Fellows」の担当については、2018年12月18日開催の打合せ会を経て抄録の修正をお願いし、さらに担当校での英文校閲を依頼し

た。

- (7) 日本医学会より ICD-11 にかかる和訳の意見照会が 1 月 8 日付で届いたので、教育委員会内用語委員会に意見提出の依頼をしたが、常務理事会メンバーの先生方からも意見あればお願いしたい。

[資料:教育 2]

**竹下俊行理事**「ICD-11 の産婦人科関連の用語は 46,000 語ほどあり、これを全て和訳するということになる。ICD-10 の際には教育委員会で和訳作業を行ったようで、ほとんどが現在も使えるが、昨年に用語集が改訂されたのでそれとの照会をする必要がある。これは厚生労働省の仕事でもあるのでそちらで対応できないかということ投げかけている。それでも最終的なチェックは学会が行う必要があり、教育委員会が中心になるが関係の先生方にもご協力いただくこともありえるので、ご承知おきいただきたい。」

- (8) 厚生労働省政策統括官付国際分類情報管理室より、社会保障審議会統計分科会「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」の専門委員(池田仁恵先生：東海大学)の任期が平成 31 年 2 月 26 日で満了することに伴い、本会より専門委員 1 名の推薦依頼があった。

**竹下俊行理事**「この件については教育委員会に一任いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会 (榎本隆之委員長)

#### (1) 会議開催

#### (2) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料: 広報 1]

#### (3) ホームページについて

##### ① ホームページアクセス状況について

[資料: 広報 2]

##### ② アップル合同会社のバナー広告について、2018 年 12 月末日で掲載契約終了となった。

終了理由：コンプライアンスが年々厳しくなり、金額面で決裁が下りなかった為。

#### (4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について

[資料: 広報 3]

#### (5) HUMAN+/Baby プラスについて

12 月 10 日現在、HUMAN+の配布・販売冊数は 183,215 部であり、学校等からの配布希望もある。Baby プラスの冊子配布施設は 1,990 施設、アプリ版 Baby プラスのダウンロード数は 11 月で累計 9 万を超えている。今後は更なる内容充実を図り、登録された産院から登録したユーザー宛てに

随時情報発信される「産院からのお知らせ」、パートナー向け「ペアリング機能」、妊娠中の検査情報が得られる「検査コンテンツ」、「カレンダー」等の機能搭載を展開して行く予定である。

## 2) 災害対策・復興委員会（村上節委員長）

- (1) 日本小児医療保健協議会（四者協）が立ち上げた小児・周産期領域災害医療対策委員会（田口智章委員長）より、本会に対して委員会への参加招請状を受領した。第9回小児・周産期領域災害医療対策委員会（平成30年12月20日開催）に、本委員会より西ヶ谷順子主務幹事が出席し、大規模災害対策情報システムについての説明を行った。

## 3) 診療ガイドライン運営委員会（工藤美樹学会側調整役）

### (1) 産科編委員会（板倉敦夫委員長）

- ① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について（1月16日現在）  
書籍版：12,438冊  
書籍版+ID/PW付き：2,305冊  
電子版ダウンロード：2,053件

### (2) 産科編評価委員会（田中守委員長）

#### ① 会議開催

ガイドライン2020 第1回産科編評価委員会
------------------------

3月30日（土）【予定】
--------------

### (3) 婦人科外来編委員会（小林浩委員長）

- ① 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について（1月16日現在）  
書籍版：7,565冊  
書籍版+ID/PW付き：1,870冊  
電子版ダウンロード：1,778件

### (4) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長）

#### ① 会議開催

ガイドライン2020 婦人科外来編第4回評価委員会（予備日）
--------------------------------

1月17日（木）【予定】
--------------

工藤美樹学会側調整役「産科編・婦人科外来編の作成委員会、婦人科外来編評価委員会は終了しており、今後コンセンサスマーケティングを6~7月に開催してファイナルバージョンを8月中に事務局に提出することになっている。」

## 4) コンプライアンス委員会（山田秀人委員長）

- (1) 役員等を対象とした利益相反自己申告書提出依頼を行った。今回の対象とする期間は、2015年4月1日より2018年3月31日までの3年間で、326名の委員の先生方+事務局11名が対象者となり、

1月9日現在316名+事務局11名より提出いただいた。残り10名の委員の先生方には現在提出の依頼を行なっている。

**山田秀人委員長**「再度提出をお願いしたところ、現時点では4名の方が残っている。」

## 5) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 1月27日(日) フクラシア東京ステーションに於いて「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革委員会フォーラム」を開催する。 [資料：医療改革1]

(2) 専門医研修施設産婦人科責任者宛て(978施設)「第11回 産婦人科動向 意識調査」(アンケート)を発送した。回答を集計の上、拡大医療改革委員会に於いて中間結果を報告する予定である。

(3) 「産科における医師偏在指標作成検討委員会」について  
厚生労働省の医療従事者の需給に関する検討会医師需給分科会に医師偏在指標作成の検討の場として設置された。2018年11月12日に予備会議、2018年12月26日に第1回会議、2019年1月16日に第2回会議が開催された。 [資料：医療改革2]

**海野信也委員長**「1月末に第3回会議を開催して産科についての検討の場は終了となり、上の分科会および検討会で協議される。都道府県単位もしくは周産期医療圏単位で出生数あたりの産科医数を医師偏在指標とする方向だが、正確には分娩取扱医師数が必要だがデータがないので限界のある指標になる。これを元に相対的な医師少数地域について検討することになるが、病院よりも診療所が多い地域は医師少数地域になりやすいなどの更なる問題点があるもののこの指標を使わざるをえないという状況である。」

(4) 「医師の働き方改革に関する検討会」(厚生労働省)への意見・要望書(案)について [資料：医療改革3]

**海野信也委員長**「医師の働き方改革に関する検討会で時間外労働の上限を5疾病5事業や研修施設では1,900~2,000時間を認めるという案が出た。産科や救急医療を担う高次施設が対象になるようである。厚生労働省は3月末までに省令を出す方針のなか次回の検討会が1月21日である。産婦人科としては、実際に過去に過労死が発生してそれへの声明を出した経緯があるなか、過労死水準をもっと重視してこの問題にあたってもらいたいということでこのタイミングで要望書を作成した。学会がこの時期この要望書を出すことについて外部からの意見もあるが、本会は以前より過労死を無くすために意見を言ってきた立場なのでこれを次回検討会の前に厚生労働省に提出したい。」

**藤井知行理事長**「外部には本会が要望書を出すことに異論を呈する向きもあるが、若い医師の気持ちを考えると今回の案を容認するわけにはいかない。上の世代は過労死水準を超えて働くのは当然と思ってやってきたが、それを放置すると若い人が本当に産婦人科に来なくなるので要望書は出す方向で考えたい。」

**海野信也委員長**「この件について医療界は意見が一致していると言いたい人たちもいるが、現実には立ち位置の違いもあってなかなかまとまらない。」

**藤井知行理事長**「このまま要望書を出すと、少し摩擦が生じる可能性はある。」

**岩下光利監事**「本会と立場の似ている外科や救急は声明を出す方向にあるのか。できれば意見の近い学会とは足並みを揃えて進めたい。」

**藤井知行理事長**「次の検討会は21日なので調整する時間はない。」

**海野信也委員長**「内容は分からないが日本救急医学会は声明を準備しているようである。しかしまだホームページなどに出していない。他の学会の情報は持っていない。」

**木村正副理事長**「残業が多いのは外科、救急、産婦人科であり、それ以外の診療科とは異なっている。本会としてはこの要望書を出してよいのではないか。」

**吉村泰典顧問**「足並みは揃わなくてもこの要望書の内容であればよいのではないか。唐突に1,900～2,000時間という案が出てきており、地方の病院に対する配慮は必要ではあるが、今回のような意見を出す診療科があってもよいと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会 (千石一雄委員長)

- (1) 第71回学術講演会に於いて、男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会・未来委員会・医療改革委員会共同企画として、「産婦人科の働き方改革」をテーマに、基調講演+ワークショップを行う予定である。  
[資料:男女共同1]

- (2) 日本リハビリテーション医学会より、第56回日本リハビリテーション医学会学術集会(2019年6月12日～16日)期間中、各学会から学ぶ男女共同参画支援」というテーマで内科系の学会の男女共同参画支援部門との合同企画を行うことになった。ついてはシンポジスト1人を推薦していただきたいとの依頼があり、本委員会の富樫嘉津恵先生を推薦した。旅費は本委員会負担となる。

## 7) 産婦人科未来委員会 (生水真紀夫委員長)

- (1) 第9回スプリングフォーラム

12月13日に学会ホームページ案内をUpし、18日には専門医指導施設宛にポスター掲示の依頼を送付した。申込はGoogleフォームで行い、料金決済についてはJTBのシステムであるアマリスを利用する。

会期:2019年3月16日(土)、17日(日)

会場:兵庫県淡路夢舞台国際会議場、ウエスティンホテル淡路

- ① 参加者募集期間:12月10日から1月15日(正午)予定
- ② 募集人数:70名(シングル利用可、家族同伴可とするが、参加費を+5,000円設定)
- ③ 新神戸からのバスに関しては、原則公共交通機関(バスの増便を依頼)で対応する。
- ④ 託児施設は10名まで利用可とする(ただし、1歳未満の乳児はお断りする)。

**生水真紀夫委員長**「今回は初期研修必修化への対応を議論していただく予定である。また産婦人科領域講習のポイントを付与することを進めている。」

- (2) 第3回プラスワンプロジェクトについて

会期:2019年5月11日(土)、12日(日)

会場:東京都フクラシア東京ステーション

今回もJTBシステムであるアマリスを利用して参加者募集を行う予定である。

- (3) 第14回産婦人科サマースクール  
会期：2020年8月22日（土）、23日（日）  
会場：かずさアーク

生水真紀夫委員長「第13回は2019年8月17日（土）、18日（日）に開催する。」

- (4) 第71回日本産科婦人科学会学術講演会の際の新専門医合格者への認定証授与式のお手伝い  
標記について、若手委員3名程度をお手伝いとして召集する予定である。
- (5) 第71回学術講演会時 産婦人科未来委員会若手委員会企画を開催の予定である。[資料：未来1]  
テーマ：リクルートを変える、未来へ繋ぐ～2020年産婦人科初期研修必修化にむけて～  
日時：2019年4月14日（日）11：00～11：40  
会場：名古屋国際会議場「白鳥南」

## 8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

- (1) 女性の健康週間2019について

①2月4日（月）～7日（木）、日本経済新聞夕刊全国版に丸の内キャリア塾女性の健康週間広告特集を掲載の予定である。 [資料：女性活躍1]

②3月4日（月）、5日（火）、女性の健康週間 丸の内キャリア塾スペシャルセミナーを開催の予定である。 [資料：女性活躍2]

- (2) 地方学会担当市民公開講座について [資料：女性活躍3]

大須賀穰委員長「現在のところ、例年通りの参加状況である。」

## 9) 医療安全推進委員会（村上節委員長）

- (1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年11月末及び12月末時点の医療事故調査制度の現況報告（含「医療事故調査制度開始3年の動向」）を受領した。 [資料：医療安全1]

- (2) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年度協力学会説明会（平成31年3月20日）の開催案内を受領した。本会から佐藤美紀子主務幹事が参加する予定である。 [資料：医療安全2]

## 10) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長） 特になし

## 11) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長）

(1)公開シンポジウムについて

2月11日(月)に、東京大学構内の伊藤国際学術研究センター（伊藤謝恩ホール）にて、公開シンポジウム「周産期からの虐待予防」を開催の予定である。 [資料：児童虐待防止1]

Ⅲ. その他

**吉川史隆第71回学術集会長**「学術集会期間中に、名古屋で人気グループのコンサートがあるので、宿泊施設の確保は早めにするように医局の先生方に伝えてほしい。」

**藤井知行理事長**「役員、新役員候補、幹事および事務局の宿泊施設の確保はお願いしたい。」

以上